



朝倉染布株式会社

平成24年に創業120周年を迎えた朝倉染布は、1世紀以上時代に合わせた企業活動を継続し、今なお挑戦し続ける老舗染色加工業者である。

明治25年、初代社長の朝倉茂三郎は、それまで生業としていた精米業から日増しに需要の高まる織物整理業へ転身し「朝倉織物整理工場」を創立。時流を捉えた転身により、大きく成長することになった。その後は、二度の世界大戦や台風などの自然災害に晒され、何度も再建不可能なほど危機的状況に陥ったこともあったが、先代たちの機転や努力、全社員の献身的な協力により、逆境を乗り越え昭和23年には現在の社名「朝倉染布株式会社」と改称・改組された。

現取締役会長の朝倉泰氏が昭和62年に5代目社長に就任すると、受託加工事業からの脱却を目指し、積極的に自主販売事業や自社ブランド製品の開発に力を注いだ。インクジェットプリンターを導入し、これまで培った染色技術に加え、短納期・小ロット対応、コンピューター処理による無限の色相表現が可能となった。多様化する客先ニーズにも対応可能な技術の引き出しの多さこそが、伝統と先端技術の融合する同社の資産である。また、コンマ1秒を競う競泳の世界においては、選手の水着に同社が開発した吸水速乾加工や強力撥水加工の技術が活かされており、世界大会などでも優れた結果を残している。超撥水加工は一部の専門分野に留まらず、雨具や風呂敷などの日用品にも採用され、「撥水風呂敷ながれ」は平成23年グッドデザイン中小企業庁長官賞を受賞するなど高く評価されている。それらの企業としての躍進は高い技術力を備えた社員に支えられており、創業以来、全社で職人を育てる姿勢の賜物とも言える。

6代目の朝倉剛太郎氏が社長就任後は、環境への配慮にも力を入れ、伝統技術と先端技術がハイブリットされた世界に誇る生産モデルとして整備されている。生産拠点の海外シフトが当たり前の今日あって、朝倉染布はメイド・イン・ジャパンにこだわり、一部に近代化遺産とも言えるノコギリ屋根工場で伝統と革新が融合する世界一の技術に常に挑戦している。

- 場所／桐生市浜松町一丁目13-24
- 電話／0277-44-3171
- HP／<http://www.asakura-senpu.co.jp/>



世界一の技術に挑戦し続ける
伝統と革新が融合する老舗企業